

製品名: PRX I ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16568**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	21kDa

抗原情報

遺伝子名	PRDX1 PRDX1; PAGA; PAGB; TDPX2; Peroxiredoxin-1; Natural killer cell-enhancing factor A; NKEF-A;
別名	Proliferation-associated gene protein; PAG; Thioredoxin peroxidase 2; Thioredoxin-dependent peroxide reductase 2
遺伝子 ID	5052.0
SwissProt ID	Q06830
免疫原	抗血清はヒト PRDX1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

この遺伝子は、過酸化水素とアルキルヒドロペルオキシドを還元する抗酸化酵素ペルオキシレドキシンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、細胞内で抗酸化保護の役割を果たしている可能性があり、CD8(+) T細胞の抗ウイルス活性に寄与している可能性があります。このタンパク質は増殖効果を持ち、癌の発生または進行に関与している可能性があります。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする4つの転写バリエーションが特定されています。[RefSeq 提供、2011年1月]触媒活性: $2 R'-SH + ROOH = R'-S-S-R' + H_2O + ROH$ 、機能: 細胞の酸化還元制御に関与しています。グルタレドキシンからではなく、チオレドキシン系から提供される還元当量を使用して過酸化物を還元します。代謝中に生成された過酸化物を除去する上で重要な役割を果たす可能性があります。細胞内 H_2O_2 濃度を調節することにより、成長因子および腫瘍壊死因子 α のシグナル伝達カスケードに関与している可能性がある。誘導: ほとんどのヒト細胞で恒常的に発現している。血清刺激により、非形質転換細胞および形質転換細胞で高レベルに誘導される。その他: 酸化ストレスにより、Cys-52がCys-SO(2)HおよびCys-SO(3)Hに過酸化されて不活性化される。Cys-SO(2)Hは H_2O_2 を除去した後にCys-SOHに逆還元されるが、Cys-SO(3)Hは不可逆的に酸化される可能性がある。その他: 活性部位は、酸化還元活性なCys-52がCys-SOHに酸化される部分である。Cys-SOHは他のサブユニットのCys-173-SHと速やかに反応して分子間ジスルフィドを形成し、同時にホモ二量体を形成する。この酵素は、その後、チオレドキシンによるジスルフィド結合の還元によって再生される可能性がある。PTM: M期にThr-90がリン酸化され、酵素活性が80%以上低下する。類似性: ahpC/TSAファミリーに属する。類似性: 1つのチオレドキシンドメインを含む。細胞内局在: 質量分析法によって、ステージIからステージIVまでのメラノソーム分画中に同定された。サブユニット: ホモ二量体。酸化によりジスルフィド結合する(類似性による)。AOP2とヘテロ二量体を形成する可能性がある。

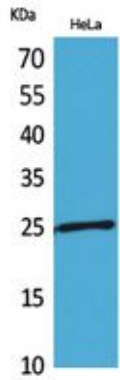
研究分野

細胞生物学

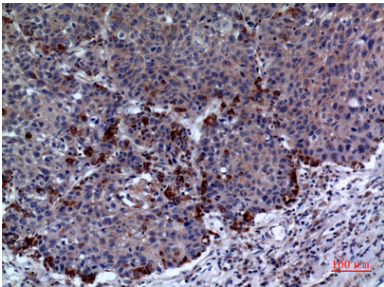
画像データ



PRDX1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



PRX I ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された